



KSK あまねだより



発行 神奈川県障害者定期刊行物協会
222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3階
横浜市車椅子の会内
編集 あまね共同作業所
239-0805 横須賀市舟倉 1-12-1
TEL 046-835-0723 FAX 046-833-4062
2019年4月30日 第422号

(頒価 20 円)

「やさしくなあに」を鑑賞して

長雨と蒸し暑い日が続いて、あまねの本部職員はのどの痛み、咳など風邪の症状で体調を崩していましたが、私もついに同じ症状で週末、床に臥せりながら、このあまねだよりを書いています。皆様もくれぐれも体調には留意してお過ごしください。

さて、6月16日、16ミリ試写室主催による「やさしくなあに」～奈緒ちゃんと家族の35年～というドキュメント映画の上映会を鑑賞しました。この映画は、横浜郊外に暮らすてんかんと知的障害を伴う奈緒ちゃんとその家族を奈緒ちゃんが8才のお正月から、叔父にあたる監督の伊勢真一さんが35年に亘って取り続けた家族のアルバムのような記録映画です。

この映画に登場する奈緒ちゃんは天真爛漫で明るく素直な女の子。お母さんはいつも奈緒ちゃんに寄り添い家族も大切にしている優しいお母さん、そしてお父さんと弟の4人の家族。障害を持つ仲間を描いた映画はありますが、35年という歳月をドキュメントとして家族を描いた映画とタイトルの「やさしくなあに」に興味を惹かれました。私も青年期まで暮らした実家での自閉症の弟との生活、結婚して、現在父としての家族との生活、福祉の現場で仲間たちの生活を見守る立場といろいろな視点から、この映画に共感し、楽しく見させていただきました。

そして、気になっていたタイトルの「やさしくなあに」ですが、お父さんがお母さんに対して怒鳴るシーンがあり、その場にいた奈緒ちゃんがお父さんに向かって、「けんかしちゃいけないよ。やさしくなあにって言わなくちゃ。」と優しい口調で諫めるのです。私事ではありますが、実家で障害を持つ弟と両親と暮らしていた頃、理由は忘れましたが、両親が言い争いをしていた時、突然、弟が「あっ」と大きな声を上げて、父親を隣の部屋に押しやるようにして、その扉を閉めたのです。自分の思いを上手く伝えられない弟ですが、父母が言い争うのが本当に嫌だったんだと思いました。

どんなに障害が重い仲間でも、上手く表現ができなかったり、伝えられないこと、理解しても

られないこと、黙っていることもあります。喜び、悲しみ、怒り、安心、不安など様々な感情を持ち合わせています。

監督がこの映画を世に送り出さなければと思ったきっかけは、2016年に起こったあの痛ましい津久井やまゆり園の事件だったそうです。障害者の存在を否定する差別思想だけでなく、ホームレスなどの貧困者や在日外国人など社会的弱者に向けた差別的・攻撃的な言動を許す社会風潮に憤りを感じると話されています。

この映画を通じて、「家族としてのそれぞれの人生」「それぞれの家族の幸せ」なにより自分自身の幸せとは何か、考えさせてくれた映画です。私の人生もいろいろと紆余曲折、ところどころ後悔もありましたが、生き方としては間違っていなかったと思いました。これからの人生、奈緒ちゃんのように、「優しい気持ち」を持って、回りの人に関わって生きていきたいと思います。

(文責 山田)



パート支援員募集

社会福祉法人あまねでは、知的に障害を持つ仲間たち生活や作業を支援するパート職員を募集しています。勤務は平日の2～3日の午前9時～午後4時です。交通費は法人規定で実費支給 時給は983円です。

詳しくは 046-833-4035 (担当: 山田)

資源回収にご協力ありがとうございます

5月実施分は
17,441kgでした。
(奨励金は69,700円)
次回の日程は別紙にて
お知らせします。

**問い合わせは9:00以降に
お願いいたします。**

☆スケジュール(7月)

- 2日(月) 合同避難訓練
- 3日(水) グループ活動
- 12日(金) 資源回収 池田・岩戸
- 13日(土) 資源回収 舟倉・若宮台
- 24日(水) クラブ活動
- 31日(水) ひまわり交流会

☆バザーの予定(7月)

22日(火) 通研販売



【あしがりのつとめ】

近藤様・宮崎様・奥村様・梶谷様・加藤様
ヨシケイ様・野尻様・相木様(順不同)

資源回収の折、バザー用品や寄付などを頂きます。お名前を記せませんが、有効に活用させていただきます。

支援センターの一日

関東地方も梅雨入りをして、湿度の高い日が多くなってきました。昼と夜の寒暖差で、体調を崩されてる方も多いようです。昨日から、令和初の台風が発生し、沖縄をはじめ各地で被害を出しながら、関東に接近しています。今年の3月に「避難勧告等に関するガイドライン」が改定され、住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとると示されました。

ガイドラインには、自治体から発表される各警報や特別警報等の防災気象情報をもとに、警戒レベルが1から5段階に分けられ、災害時にとるべき行動が示されています。

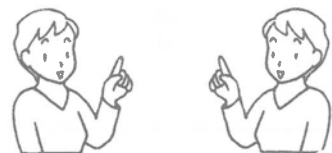
横須賀市は、山や海に囲まれていますので、まずは土砂災害ハザードマップや津波ハザードマップで、ご自宅の場所を確認してみてください。もしもの時のために、広域避難場所を家族と確認しておく事も大切です。7月1日には、あまね共同作業所とキッチンハウス、ワークハウスでなかま達と一緒に避難訓練を実施します。今年は支援センターの職員も参加し、災害が起こらない事を祈りつつ、もしもの時に備えたいと思います。

今年は、きょうされんで40周年記念映画「星に語りて」という映画が制作されました。東日本大震災をテーマに、障害のある人にとっての震災を、事実をもとに描いています。あまねも横須賀での上映に賛同しています。障害のある人も、そうでない人も、一緒に観ていただき、映画の感想を話し合えたらいいなと思っています。



今年も参加してきました！意見交換会（昼の部）！！

6月27日に総合福祉会館で、21回目の意見交換会が開催されました。今年は支援センターの増子職員と一緒に参加しました。最初の時間に、乳幼児期から学齢期までの意見交換がされ、最初の発表は、家庭と学校と福祉サービス事業所との連携について。学校の先生は、放課後児童サービスでの活動内容を知らないなどの現状があり、保護者が間に入って伝えていかないと、情報の共有や支援の連携が取りづらいという事でした。



理想的なのは、ご本人や保護者を中心に、各支援者（学齢期には、学校、放課後児童サービス、移動支援など）がお互いの支援内容を知っている、理解している事ですが、私も移動支援の支援者として係わりますが、利用者を送迎した先で、どのような支援を受けているか、詳細まで分からない事が多いです。そこでご協力いただきたいのが、相談支援事業所の方々です。大きな課題や変化が無くても、個々の支援が繋がりを持てるように、話し合いの場所を作って欲しいです。書類のやり取りや、電話でお話するだけでは分からない事も、支援者同士が顔をみて話すことで、同じ目標や意識を持って係われます。またそのようになって欲しいです。お子さんの成長とともに、支援の輪は広がっていきます。支援者のバトンが繋がっていきますように。

あまねからは6人のなかまが参加しました。全部は書き切れないので、一部をご紹介します。「お給料をもらえて嬉しい。そのお金で好きなキャラクターグッズを買いたい。」すごくいいと思います。自分のお給料を好きな事に使えるのは、大人になった証ですね。「(グルーホーム職員の)Sさんと久里浜のイオンに行きたいです。」この意見を是非ともSさんに聞かせてあげたかった。近いうちに叶うといいですね。今年もなかまの言葉に、たくさんの元気を貰いました。ありがとうございました。来年は夜の部に参加したいと思います。

(藁谷)

ヘルパー募集

あまね支援センターでは、ヘルパーを募集しています。内容は知的に障がいのある人への外出介護になります。

初任者研修(2級ヘルパー)資格を持っていて、やる気のある人を募集しております。勤務時間は、週1回、1時間からでも始められます。

お問い合わせは・・・046-833-2919

(担当 藁谷)

ふきん販売に

ご協力ください！

布地8枚重ね 3枚組

660円

ご注文は作業所まで

046-835-0723